

発寒ひかり
保育園だより

2020年
5月号

巻頭言

ばんび（4歳児）組に進級したF君は、小さい子と追いかけてっこや触れ合い遊びなどをしながら上手に遊んでいます。また給食では、保育士と一緒に赤ちゃんにごはんを食べさせたり、りす（2歳児）組のKちゃんにご飯を食べさせたりしています。Kちゃんは少し照れくさそうにしながらも、まるで食べさせてくれるのを待っているかのようです。

私が「F君は、本当にお世話が上手だね。いつもありがとう」と伝えると、「Fは、おにいちゃんだから」と頼もしい返事が返ってきました。「素敵なおにいちゃんになったんだね、すごいね」というと、「Fが小さい頃、きりんさん（5歳児）が食べさせてくれたり、一緒に遊んでくれたから」と答えました。私は、F君が、自分がお世話してもらった時のことをしっかり覚えていて、「今度は自分がやってあげたい」と自然に思える子に育っていることに感動しました。

F君にお世話されているKちゃんも、自分より小さい子に気にかけて、同じ目線の高さで優しく声をかけながら一緒に遊んでいます。F君の関わりが自然と伝わっているのです。う。F君の愛情がKちゃんに伝わり、Kちゃんの愛情もまた小さい子へと伝わっていくのは、当園の0～5歳の異年齢保育の賜物だと実感しました。子どもたちのやりとりを見ていると本当の「きょうだい」のように思え、いつも幸せな気持ちになります。

子どもたちが大人になってからも、その愛情を困っている人や助けが必要な人に注いでくれることを願いながら、保護者の皆様と一緒にその成長を見守っていききたいと思います。

めろんファミリー 担任 佐藤 郁美